



平成26年(2014年)

6月5日

木曜日

赤口

太陽光発電へ理解深める

新宮港で中学生ら見学

新宮港では平成24年度から3か年で、二酸化炭素排出量の削減と、災害など停電時の電力確保を目的に、同じ規模の港湾に導入できるか見極めるための事業が行われている。事業は新宮港埠頭株式会社など3社が共同で行っている。

出前授業は、市立三輪崎小6年生81人を対象に4日にも行う計画で、講義と施設見学を通して環境への関心を深めてもらうのが目的。

共同事業者のエヌエス環境(東京都)事業推進部企画課の畑中謙吾さんと、技術支援者の京セラ(京都府)ソーラーエネルギー事業本部の東洋一さんが講師で、太陽光発

国の委託で太陽光発電の実証実験事業が行われている新宮市の新宮港で3日、出前授業があり、市立光洋中学校の1年生84人が事業の狙いや、太陽光発電の仕組みなどへ理解を深めた。

電の仕組みを説明したり、太陽電池を使った教材で実験をしたりした。

港内では緑地帯に100キロワット、新宮港埠頭管理棟屋上に10キロワット

の発電設備が設置されており、昨年11月末から運用している。生徒は480枚のパネルが並んだ緑地帯の施設を見学。東さんは「将来は日本中、世界中で当たり前の風景になると思う。今一度電気のことを考えてみてほしい」と呼び掛けた。また、新宮港埠頭の小池薫二社長が記念品を贈呈した。

田中理那さん(12)は「新宮港にこういう施設があることを初めて知りました。いろんなことを教えてもらえてよかったです」と話していた。